

．自由回答にみるステップファミリー経験

この章では、調査票の自由回答部分である「ステップファミリーを営んでいるの感想」について、特に難しいと感じるような経験、喜びや幸せを感じるような経験、その他に分けて、その記述内容を分析し、特徴をみていくことにしたい。

1．特に難しいと感じるような経験について

回答者 103 名のうち、特に難しいと感じる経験についての記述があったのは、80 人であった。記述数からみると、喜びや幸せを感じる経験に関する記述にくらべて、難しいと感じる経験に関する記述の方がかなり多く記入されていた。

これらの記述をその内容から分類すると、大きく5つのカテゴリーに分類することができた。最も記述内容として多かったのは、親子関係（継父母 継子関係を中心とする）に関するものであり、45 件と半数以上を占めていた。またその他の記述については、以前のパートナーや別居している子との関係に関するもの 11 件、自分、パートナーの両親やその他親戚との関係にかんするもの 10 件、近隣などの周囲の人々との関係に関するもの 8 件、その他のカテゴリー9 件であった。（尚、件数はのべ数である）以下、それぞれのカテゴリー別にその内容について分析し、その特徴をあげていく。

(1)親子関係（継父母 継子関係を中心とする）に関するもの（45 件）

難しいと感じること - 親子(継親子)関係にかんするもの(45 件)

1. 連れ子とパートナーの関係がうまくいかない
2. 継母との関係がうまく築けなかった(6 歳～18 歳)
3. 実子に再婚したことについて文句をいわれる
4. 継子と実子に対するパートナーの接しかたがちがうこと
5. 実子とパートナーとの間で板ばさみになってとてもつらい
6. 初婚の夫が連れ子とのかかわりでストレスを抱え込んでいること
7. 連れ子たちと夫の間にはさまれ、どうしてよいかわからなくなるとき
8. 新しいパートナーとの子どもの誕生に期待とともに不安を感じる
9. 連れ子を責任を持って育てるのは実母である自分と思うプレッシャー
10. 子どものしつけについてのパートナーとの考え方の違い
11. 連れ子とパートナーの関係(しつけの面・叱り方など)
12. 実子と継子とのしかり方について、平等にできない
13. 継子のしつけについて自分が感情的になっていないか悩む
14. 初婚のパートナーが連れ子に対するしかり方が厳しすぎる

15. 夫の連れ子が転校を拒否し、夫とは別居状態になっていること
16. 夫の連れ子である娘との関係が難しい
17. 子どもの苗字を変えるタイミングが難しい、それを子どもに理解させること
18. 連れ子が何かやらかしてしまったとき、パートナーの表情が険しくなること
19. 自分の好きな人(夫)に自分より大事な人(継子)がいること(主人の愛人みたい)
20. 初婚のパートナーに連れ子3人のいい父親を求めすぎてしまうこと
21. 継子との生活は感情の処理がむずかしい
22. 子育ての経験がなく、継母として幸せを感じることはない
23. 妻と連れ子との関係がむずかしく、自分が神経を使う場面が多いこと
24. 自分を殺して、継母として継子に対して母親役に徹しているので疲れる
25. 父親とはこうあるべきというパートナーと連れ子との関係に悩んだ
26. 継子を自然に愛せない。そういう自分がいや
27. 継子の生活習慣等を直すのが大変だった。(お箸の持ち方など)
28. 継母として、実母に負けている気がして、いつもイライラしている
29. 妻(継母)と連れ子との関係が一番難しい
30. 妻(継母)と連れ子との関係(実子との愛情の差が感じられる)
31. 継子の思っていることが気になって仕方がない
32. 継子を育てることがこんなに難しいなら結婚しなければ良かったと後悔。
33. 継子との相性がむずかしい。
34. パートナーが連れ子のしつけで気をつかってしまい、つい甘やかすこと
35. パートナーと連れ子の関係でかなり悩んだ
36. 継子に対して「実母」とうそをついていることにプレッシャーを感じる
37. 思春期の子どもがいる同士の再婚であること
38. 継子と実子の教育費の偏りがある。継子にお金がかかりすぎ
39. 自分(継母)と継子との関係がしんどい。生理的に受け入れられない
40. 継子との親子関係の築き方。理想と現実との葛藤がある
41. 既に出来上がっている親子に入っていくとき自分は新参者という意識
42. 継子が思春期の頃、関係がむずかしく、衝突を繰り返した
43. 連れ子同士の結婚で、同年齢、同性の子どもの扱いが難しく、精神的に不安定
44. 継子のしつけに対して不満だが、子育て経験がないので相手にされない
45. パートナーが継子に甘く、実子に対する態度と違うことが辛い

最も多いのは、子どもをつれて再婚した場合において、新しいパートナーと連れ子との関係について難しいと感じている記述であった。「連れ子とパートナーの間で板ばさみとな

り苦しい」「連れ子たちと夫の間にはさまれ、どうしてよいかわからない」「2 人の間で神経を使う場面が多い」など、男女に関わらず、自分の子どもを連れて再婚した人の場合、新しいパートナーと連れ子との関係について、その間に入り、悩む経験が多いことが伺える。

また特に初婚の女性（継母）の場合では、パートナーの連れ子（継子）との関係について、難しいと感じている記述が多くみられた。「継子を自然に愛せない」「自分を殺して、母親役に徹しているので疲れる」「パートナーに自分より愛する人間（継子）いるのがつらい」「継子のしつけに不満があるが、子育て経験がないので相手にされない」といったように、結婚と同時に母親という役割を果たさなければならないことや、継子と新たな母子関係を作らなければならないというプレッシャーなどに対して困難を感じている記述が多かった。

連れ子のいる人同士の結婚では、お互いの子育て観の違いや、パートナーの実子と継子に対する対応の違いなどについて、不満を感じている記述がみられた。

全体を通して、今回の回答では、継親、実親を問わず、ステップファミリーのメンバー間での関係においては、とりわけ親子関係に重点をおき、それをどう作っていくのかについて、最も悩みや困難さを感じている人が多いことが伺えた。

(2)以前のパートナー・別居する実子等との関係（11 件）

難しいこと - 以前のパートナー・別居している実子等との関係に関するもの
1. パートナーと連れ子の実親とのかかわりが悩みの種
2. 別れた実子と交流のない状況に悩んでいる
3. パートナーの別居した子が、近くに住んでいて交流があること
4. 継母として、実母に負けている気がして、いつもイライラしている
5. 亡くなった前妻の思い出の品を自分が受け入れられない
6. 前の夫と連れ子、パートナーとの関係のとり方がむずかしい
7. 別れたパートナーの妻が近くに住み、継子にちょっかいを出してくること
8. 以前のパートナーの親との関係が難しい
9. 前のパートナーと、子どものしつけについて共通認識がもてない
10. 元妻と別れて暮らすパートナーの子、同居するパートナーの両親との関係
11. パートナーが離婚の経緯から、前妻に憎まれており、前妻に配慮しすぎる

今回の調査では、以前のパートナーとの関係についての悩みや困難さを感じる記述は、比較的少数であった。これは多くの日本のステップファミリーでは、生別の場合でも、離婚、再婚と同時に以前のパートナーとの関係や交流がほとんどないケースがかなり多いことの結果であるともいえる。しかし何らかの交流がある場合、少数ではあるが、「パートナ

一の連れ子と実親とのかかわりが悩みの種」「パートナーの別居した子が、近くに住んで交流があること」「前夫と連れ子、新しいパートナーとの関係の取り方がむずかしい」「前のパートナーと子どものしつけについて共通認識がもてない」といったように、そのことが悩みやストレスにつながっているケースも見られた。一方で、「別れた実子と交流のない状況に悩んでいる」といった、交流をもてないことに対して、悩みを感じるも意見もあった。

(3) 祖父母やその他親戚との関係 (10件)

難しいこと - 祖父母や親戚等との関係に関するもの
1. 継母への世間(義父母、小姑含む)の偏見が強かった
2. 自分の実家との付き合い方がむずかしい
3. 再婚について、実家の両親が猛反対なのが悩み
4. 継子に対するパートナーや実母、その祖父母の行動が理解に苦しむ
5. これまで継子を育ててきた祖母と、継母である自分が比べられること
6. パートナーの両親との同居だったので、疎外感を感じた
7. 再婚することに自分の両親が猛反対していること
8. お互いの親に理解を求めることが難しい。再婚は汚らわしいといわれる
9. 以前のパートナーの親との関係が難しい
10. 元妻と別れて暮らすパートナーの子、同居するパートナーの両親との関係

祖父母や親戚等との関係では、「再婚は汚らわしいといわれる」「自分の両親が再婚に猛反対」などの記述に見られるように、特に祖父母に再婚そのものを理解してもらうことがむずかしいという感想が目立った。その他、相手の祖父母と同居の場合、祖父母との関係のむずかしさ、特に再婚まで継子を育ててきたのが祖父母の場合では、子育てをめぐっての意見の相違や子育てについて比較されることに難しさを感じるという記述がみられた。

(4) 近隣や周囲の人々との関係 (8件)

難しいこと - 近隣や周囲の人々との関係にかんするもの
1. 実親でないことで、学校や児相に偏見がある
2. 周囲が継母に育てられて不憫だと継子のことを思っているのではと感じる
3. 義理の関係が入ってくると、偏見を持ってみられる
4. 周りに同じ立場の人がおらず、一人でがんばってきたこと
5. 継子の周囲(祖母、学校、学校の友人など)との関係がむずかしい
6. 再婚後すぐに職場で通常勤務(三交替)に復帰させられたこと
7. 周囲の目が気になる。何かあるとSFだからとマイナス思考になる

8. 周りに継父であるということで、虐待が心配だと思われていたこと

周囲の人々との関係では、継父母に対する偏見、例えば「継母に育てられて不憫と継子のことを周りが思っているのを感じる」「継父であるということで、周りに虐待するのではと心配されていた」といった記述がみられた。

また「再婚後は子どもが増えたり、家族関係が複雑になり大変な状況であったのに、母子世帯ではなかったということで、すぐに通常勤務（3 交替制）に復帰させられた」といったような、ステップファミリーに対する職場の理解の得られにくさを述べた感想もあった。さらに、「実親でない」ことに対する学校や児童相談所といった専門機関の偏見についての記述も少数意見ではあるがみられた。

(5) その他（9 件）

難しいこと - その他

1. 連れ子を責任を持って育てるのは実母である自分と思うプレッシャー
2. 子どもの苗字を変えるタイミングが難しい、それを子どもに理解させること
3. 夫の酒ぐせが悪く、暴力があり別居中
4. パートナーにとって、妻は家政婦ではなく一人の女性であることをわかってほしい
5. パートナーとのコミュニケーションが一番むずかしい
6. 収入が少ないこと
7. いきなり 3 人の子育て、引越し、退職等、環境の変化が大変だった
8. パートナーがアルコール依存症であるため、私への負担が大きすぎる
9. 価値観の違うもの同士、新たな価値観を生むむずかしさ

その他の難しさとしては、「パートナーとのコミュニケーションが難しい」「パートナーにとって、自分は家政婦ではなく一人の女性であることをわかってほしい」といった、パートナーとの関係に難しさを感じる意見がみられた。一方、「パートナーが酒ぐせが悪いため、暴力をふるうこと」「パートナーがアルコール依存症」といった、再婚とは別に、相手が大きな問題を抱えていることに対する困難さを感じているという記述もみられた。

また「子どもの苗字が変わること」「いきなり 3 人の子育て、引越し、退職等環境の変化が大きかった」など、再婚を契機に、生活環境が大きく変化することへのむずかしさをあげた人もいた。

2. 喜びや幸せを感じるような経験について

難しいと感じることに対する記述と比較すると、ステップファミリーとしての喜びや幸せを感じる経験に関する記述は全体的に少なかった。全体として 43 件の記述があった。

最も多かった記述は、親子（継親子）関係に関することについてであり、そこに喜び

や幸せを感じていると記述している。以下、新しいパートナーとの関係、その他のカテゴリーに記述を分類し、それぞれのカテゴリーについて特徴をまとめた。

(1)親子(継親子)関係に関するもの(27件)

喜び・幸せを感じること - 親子(継親子)関係に関するもの
1. 子ども(実子)をパートナーがよく面倒をみってくれる
2. 今の夫に子どもとともに大切にされていること
3. パートナーと継子とが愛し合っていること
4. パートナーが継子と楽しそうにしているとき
5. 連れ子がパートナーにスキンシップを求めるとき
6. 継子と継父である自分の間に溝がないこと
7. 子連れ同士の結婚 + 実子の誕生で家族が増えたこと
8. 家族が増えたこと
9. 今のパートナーは自分にも娘にもとてもやさしい
10. 継子に夕食やお弁当がおいしかったと言われること
11. 継母としての体験が自分の成長につながっている
12. 子どもとパートナーと自分が一緒にでかけること
13. 懐かなかった継子がだんだん懐いてくれること
14. パートナーが自分と子どもたちを双方愛してくれること
15. パートナーと連れ子が遊ぶ姿を見ると幸せを感じる
16. パートナーが自分や子どものことを親身になって相談に乗ってくれること
17. パートナーが連れ子に対して、自分をパパと言うようになったこと
18. パートナーの母に継子に笑顔が戻ったと言われたこと
19. 子どもたちを愛してくれる父親ができたこと
20. 私の連れ子とパートナーと一緒に遊んでくれること
21. 継子が自分のことを私にわかってほしいと思ってくれること
22. 継子との関係がとても良好であること
23. 今は継子が「おかあさん」といってくれるだけでうれしい
24. 継母として継子に愛情を注いでいけると確信していること
25. 今の夫婦関係、親子関係が良好なこと
26. パートナーが、自分や連れ子に対して、親身になって接してくれること
27. 連れ子が、自分よりパパ(パートナー)の方が好きと言ったとき

ここでは、特に自分の連れ子と新しいパートナーとの関係が良好であることに對して、

喜びや幸せを感じる実母が多いのが特徴的であった。「継父が連れ子に対して、とてもやさしくしてくれる」「連れ子とパートナーが楽しそうにしている」「連れ子がパートナーにスキンシップを求めるとき」等といった記述がみられた。

また継父母の立場からは、やはり継子との間にいい関係が結べたことに対する幸せや喜びを感じる記述が目立った。「継子との間に溝がないこと」「継子との関係がとても良好であること」というものから、「懐かなかった継子がだんだん懐いてくれること」「継子にお弁当がおいしいといわれたこと」「おかあさんと呼んでくれるだけでうれしい」といった日常の継子との関係のささやかな変化に喜びを見出している記述も目立った。

(2)新しいパートナーとの関係 (9件)

喜び・幸せを感じること - パートナーと関係(9件)
1. 今の夫に子どもとともに大切にされていること
2. パートナーを愛しているのでがんばれること
3. パートナーがとても安らぎを与えてくれる
4. 今のパートナーは自分にも娘にもとてもやさしい
5. パートナーが誠実でやさしい人なので再婚して良かった
6. パートナーが自分と子どもたちを双方愛してくれること
7. パートナーが自分や子どものことを親身になって相談に乗ってくれること。
8. 今の夫婦関係、親子関係が良好なこと。
9. 自分や連れ子に対して、親身になって接してくれること。

新しいパートナーとの関係に喜びや幸せを感じるとした記述も目立った。「パートナーにとても大切されている」「パートナーは自分や子どもにとってもやさしい」「自分と子どもたち双方を愛してくれる」「親身になって相談に乗ってくれる」といった記述がみられた。

(3)その他 (15件)

喜び・幸せを感じること - その他(15件)
1. 再婚により、心と経済的安定が得られたこと
2. 子連れ同士の結婚 + 実子の誕生で家族が増えたこと
3. 家族が増えたこと
4. SFは難しいが乗り越えたとき、絆の深まりを感じる
5. 連れ子が現在のパートナーとの子をかわいがってくれる
6. 家族のことを考える機会が多く、些細なことでも幸せを感じる
7. 一定の年月が経って、家族としての自然な流れが出来たこと
8. 継子と実子が仲良くしているところをみるとき

9. 実子が生まれて、兄弟が仲良くすごしていること
10. パートナーの両親等が自分と連れ子によくしてくれること
11. 父子家庭時に比べて、精神的にゆとりが生まれた
12. 実子と継子の仲の良い姿をみること
13. 普通の家庭と思えること。今はとても普通です。
14. 母子家庭のときより気持ちに余裕が持てるようになった
15. SFとしての悩みに直面することなく、過ごせていること

ここでは、ひとり親世帯だったときと比べて「気持ちに余裕が持てる」「心身の安定がもてる」といった記述にみられるように、再婚によって得られた生活の安定に対して、喜びや幸せを感じるという記述がみられた。また、「実子と継子が仲良くしている」「新しく生まれた子どもを継子がかわいがってくれる」といった再婚によって新たに生まれたきょうだいの関係が良好なのがうれしいという記述もあった。

その他、「家族の数が増えたこと」「絆が新たに生まれていくこと」「問題を乗り越えたとき」「家族のことを考える機会が多く、些細なことにも幸せを感じる」といった、積極的にステップファミリーとして幸せや喜びを見出そうとしている記述もみられた。

3. その他の記述について

その他の記述 - 19件

1. セミナーで「継子を愛せないあなたは健康です」と言われ救われた
2. 表面的にはおだやか。今の暮らしをこわすのは怖い
3. 継母が安心して相談できる機関がほしかった
4. 同じ立場の継母と出会い、お互いの話を聴き、救われた気がした
5. 相談できる専門機関がほしかった
6. 継子と親しくできる大人のパートナーであることがSFがうまくいく鍵
7. 共同親権の実現を切に願う
8. なぜ周囲のSFが大変なのかがあまり理解ができない
9. 他の継母さんとのつながりが持てて、すごく心が軽くなった
10. HPを見て自分と同じ継母の立場の人がたくさんいることで安心した
11. お互い思いやりと広い心を持って接することがSFのよい関係になる秘訣
12. 継子が大人になり、一人立ちしてくれる日を心待ちしているのが本音。
13. 継母のサークルに入って悩みを言えるようになって楽になった
14. わかって結婚したはずなのに、普通の家族がうらやましくて仕方ない。情けない
15. 継母のサークルに入ったことが心の支えの一つになっている

- | |
|---|
| 16. SF 歴 34 年目。継子に孫も出来て、自然体で暮らしている |
| 17. SF のサイトがもっと早くあれば、こんなつらい結婚は絶対しなかったのに |
| 18. 制度的な結婚はしていないが、子どもの将来にむけて今のままでいいか悩む |
| 19. 自分自身も連れ子であったが、継母が愛情を注いでくれた。 |

その他の記述の中で目立ったのは、継母など、同じ体験をもつ人たちとの出会いや継母サークルへの参加によって、「救われた」「心が軽くなった」「安心した」「悩みが話せるようになり楽になった」「心の支えの一つになっている」といった記述であった。

一方で「安心して相談できる専門機関がほしかった」「ステップファミリーのサイトがもっと早くあれば、情報を得て、こんなつらい結婚はしなかった」といった、相談できる場や必要な情報が得られなかったことを残念に思っている記述もみられた。

具体的な要望としては、「共同親権の実現を切実に願う」という、現在実子と別居して新たな再婚家族を持っている人からの要望や、「現在、制度的な結婚はしていないが、子どもの将来にむけて入籍した方がいいのか悩む」といった具体的な法律上の悩みについての記述も見られた。

さらにすでにステップファミリー歴 30 年以上の方からは、「現在では継子に孫も出来て、自然体で暮らせるようになってきている」といった感想や、「自分自身が継子であったが、そのとき継母が愛情を注いで育ててくれた。それが今の SF の基盤になっている」といった記述もあった。

4. 考察

自由表記全体を通して、その内容から、今回のステップファミリーの父母たちは、新しい家族の関係において、その親子関係に最も力点をおいており、その関係に悩み、ストレスを感じる一方で、親子関係が築かれていく過程に喜びやうれしさを感じているという特徴がみられた。アメリカのステップファミリーのサポート組織 (SAA) では「ステップファミリーがうまく機能するには、ひとりの個人として自立すること I(individual)、結婚して夫婦となる C(couple)、子どもを持って親となる P(parent)という ICP の優先順位で、絆を築いていくことが成功につながる」(『ステップファミリー：幸せな再婚家族になるために』E. & J. ヴィッシャー著、春名ひろこ監修、WAVE 出版、2001 年、pp.142-144) ということが当事者の体験から述べられている。今回の自由表記をみるかぎりにおいては、回答者の意識として、新しい家族関係の中で、カップルとしての夫婦関係よりも、まずは親子関係が第一に考えられていることが伺えたが、そのことがステップファミリーの状況にどのような影響を与えているのかについて、今後より詳細な聞き取りなどの調査の必要性を感じた。

また SAA などによるアメリカの先行事例では、ステップファミリーの特徴として、別れた元夫、元妻との関係が非常に困難さを感じる要因となっていることが明らかになって

いる。しかし、今回の調査では、そういった関係に難しさを感じるとしたケースは少数であった。これは、現時点では再婚後も元のパートナーと子どもの面会などの行為を通して交流を続けているケースが全体として多くないことを反映した結果と思われる。数少ない交流しているケースでは、元のパートナーとの子どものしつけに関する共通認識がもてないことや、現パートナーと元パートナーとの子どもをめぐる関係のとり方について悩みを抱えているといった記述があった。こういった困難さは、今後養育費の義務化など、離婚後の子どもをめぐる養育のあり方が変化していくことになれば、わが国でも、より大きな課題になることも考えられる。